の psp〕は厚膜多角形で径 1～4 μ の球形の澱粉粒〔F の sta〕を充満し，蓚酸石灰の単晶〔F の cr〕の少数ずつを含有する。外乳の内方の内乳〔F の esp〕はきわめて薄膜性の細胞で淡黄色を呈し，ゼリー様半透明の物質が充満しヨード試液によつて淡黄褐色となり，蛋白質の反応を示し，この中にきわめて稀れに微細な澱粉粒が見られる。また内乳の最外部の 1 層はスダン III で赤染される内容物を含むものが多く，その外側の外乳の最外部は少しく圧扁された細胞がある。胚〔F の em〕はやや厚膜性多角形の細胞で中に脂肪油滴〔F の fo〕を充満している。

最後に日本薬局方の試験法に従い一般成分の定量の結果は次の通りである。(%)

試　料	乾燥減量	灰　分	酸不溶性灰分	精　油
海口市場品	17.51	6.70	4.09	50 g : 0.30 cc
広東市場品	15.76	5.38	3.47	50 g : 0.25 〃
香港市場品	16.63	6.03	3.78	50 g : 0.3 〃

本研究に際し文部省科学試験研究費の援助を受けた，ここに感謝の意を表する。

引　用　文　献

1) E. Watoson: The principal articles of Chinese commerce: 402 (1923); I. H. Burkill: A dictionary of economic products of the Malay Peninsula: 1307 (1935); Journ. Linn. Soc.: 6 (1873); 田中長三郎: 南方植産資源論 (1943).

2) 木村，三瀬，中村: 海南島に於ける薬用植物並に漢薬に関する調査報告 (1941) 興亜院.

3) 正宗厳敬，福山伯明: 海南島採集植物目録 (台北帝国大学第 1 回) 海南島学術調査報告 (1942); 正宗厳敬: 海南島植物誌; 411 (1943).

略字解. ag: aleuron grain, ari: arill, chm: chromoplast, cr: crysatal, cu: cuticle, cz: chalaza, em: embryo, eo: essential oil, ep: epidermis, esp: endosperm, fo: fat oil, he: hilm, oc: oil cell, pig: pigment layer, psp: perisperm, ra: raphe, sd: seed coat, se: stone cell, sta: starch grain.

○白花のアゼトウガラシ（檜山庫三） Kōzō Hiyama: *Vandellia angustifolia* Benth. forma *leucantha*

1956 年 9 月 2 日，上総国東浪見で若名東一氏がアゼトウガラシの白花品を採集されたので報告する。本種は広く東南アジアに分布するから，その白花品の存在も既に知

られていたことであろうが，名が見当らないようである。そこで，この者をシロバナアゼトウガラシと新称し，学名は下の如く定めたい。

Vandellia angustifolia Benth. in DC., Prodr. **10**: 417 (1846).

forma **leucantha** Hiyama, nov. f.

Corolla candida.

Hab. Hondo: Torami, Prov. Kadzusa (leg. T. Wakana—Sept. 2, 1956—typus in Herb. Nat. Sci. Mus., Tokyo).

○ 屋久島の羊歯フロラに加える（斎木保久，上野明） Yasuhisa SAIKI & Akira UENO: Several ferns newly found in Is. Yakushima

筆者等は原田利一教授指導下に天野淑子孃と共に 1956 年 8 月 4 日～11 日迄屋久島に滞在し植物採集したが，従来同島に未記録と思われる羊歯数種を採集したので玆に報告する。

(1) **Polystichum Hancockii** Diels タイワンジウモンジシダ (Fig. 1) 鈴川附近原生林（海抜 200 m 附近)，従来の北限地は沖繩島。生育地は谷の岩上で極稀のもの。附近のシダ相はヘツカシダ，ウスバクジヤク，アツバキノボリシダ，ミヤジマシダ，ヤクシマカグマ，ナンカクラン，ヒモラン等。台湾産のものに比べて小さく葉長 20 cm 位で，一株に葉を 10-20 枚位つける。

(2) **Tarachia** spp. (*Asplenium* spp.) (Fig. 2) 上記のシダと殆ど同一個所で矢張個体数は極めて少い。トキワシダ *Tarachia Yoshinagae* H. Ito (*Asplenium Yoshinagae* Makino) に酷似しているが，葉質が軟く黒緑色で葉の切れ込みが著るしい。台湾産のオオトラノオシダ *Tarachia laciniata* H. Ito (*Asplenium* Don) に最も良く似て居り，或は同種とも思われる。

(3) **Pteris Grevilleana** Wallich アシガタシダ (Fig. 3) 中橋（安房——麦生間）附近原生林 海抜 200 m 附近の地点。従来の北限は石垣島。産量は頗る稀で，やや乾燥した密林中の土上。附近のシダ相はアツバキノボリシダ，ホソバオオカグマ，フササジラン，タイワンクリハラン，コウモリシダ，シンテンウラボシ，ヤリノホラン，ヘツカシダ，ホソバオオタニワタリ，チャボヘゴ，ヒカゲアマクサシダ等。尚屋久島の本種は伊藤洋氏著日本羊歯図鑑第 45 図のものより葉柄の翼がやや発達しない個体である。

(4) **Pteris Cadieri** Christ カワリバアマクサシダ (Fig. 4) 前種と殆ど同一の地点で前種より更に稀。従来の北限は沖繩島。

(5) **Pteris natiensis** Tagawa ヤワラハチジョウシダ (Fig. 5) 屋久島のハチジョウシダ類は葉の厚いハチジヨウシダ *Pteris Fauriei* Hieron. 羽片や耳の多いトゲハチジョウシダ *Pteris setuloso-costulata* Hayata 羽片が大きく葉柄の赤くて美しいヒカゲ